

第1群の座長をつとめて

山下博子
(石川県立中央病院)

第22回石川看護研究会学術集会において、第1群の研究発表座長をつとめさせていただきました。担当させていただいた1群は、臨床での看護実践に関する発表4題でした。

第1席、公立つるぎ病院の中川順子さんの発表は、白内障手術の術前説明に模型・人形を用いるその効果をアンケート調査からまとめられた研究でした。模型・人形を用いるという発想が豊かで工夫されていると思いました。高齢者が多い白内障手術に模型・人形を用いた説明は、手術の痛みに対する不安の軽減には明らかな結果は得られませんでした。手術がイメージでき理解を得るためには効果的な方法であったとの結果でした。この結果をふまえ、術前説明に模型・人形を用いるという方法を今後も継続実践され、更に痛みを6項目の処置毎に評価され、不安の軽減につなげて頂きたいと思います。

第2席、金沢循環器病院の中島あゆみさんの発表は、短期入院患者に対して、心臓リハビリテーション教育を冠危険因子を基に個別指導を行い、約6割の理解度の向上とデータ改善が得られたという発表でした。因子別分析では、高脂血症・肥満で理解度・データともに5割以上の向上・改善があり、喫煙は8割の患者が禁煙できたとの結果でした。質疑応答では、短期入院の中で指導を実施する担当者、要している時間、多職種への介入について、また理解度の向上が低かった40歳代の背景などについて質問があり、有意義な時間でした。心臓リハビリテーションは、診療報酬改定に伴い、今後ますます注目される分野だと思えます。更に

年代に応じた個別指導を極められることを期待します。

第3席、済生会金沢病院森嶋由沙さんの発表は杖歩行が自立した片麻痺患者が転倒により大腿骨頸部骨折に至った2事例の要因検討でした。心理的要因として、不安が関与しているのではという思いから調査されました。結果、2事例の心理的要因として、退院を間近にした不安ではなく、楽しみ・喜びという心気高揚が関与していること、また、歩行への自信・過信も転倒の重要因子であるとの結果でした。研究発表を通して、自力行動下の転倒は転倒防止に限界があることを感じながら、また患者の安全を守り危険を防止するには、患者の身体の弱点や行動・危険性の認識が重要だと改めて考えさせられました。

第4席、金沢市立病院小津由紀枝さんの発表は透析患者の足病変の実態と保有に関連する要因の調査研究でした。93.5%の患者が足病変を保有し、関連要因として、高齢・低栄養・合併症の併発が関連しているとの結果でした。貴重な調査結果から、ケアを行う方向性が導かれています。まさに、本日の学術集会のテーマである看護研究によるケアの改革が明らかにされた研究だと思いました。今後、透析時間を利用した患者指導、悪化予防を考慮したケアの実践へと繋げられることを願っています。

最後になりましたが、研究に取り組まれた皆様お疲れ様でした。今後のご活躍を心よりお祈りしております。また、座長の機会をあたえていただいたことに感謝いたします。